

# 地震に備える

地震に負けない建物づくりと私たちの暮らし  
～紹介します！千歳市耐震改修促進計画～

写真協力 北海道立北方建築総合研究所  
日本技術開発(株)

これまで地震による大きな被害を受けたことがないとされる私たちのまち千歳。

しかし、千歳周辺には地震を引き起こす可能性がある活断層帯があり、これを震源とする地震が発生したときは、千歳にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

広報ちとせでは、昨年9月号で「地震に備える。そのとき、地震はあなたを襲う」を特集し、千歳で発生が予想される地震の状況や地震が起きたときに私たちがとるべき行動について紹介しました。

今回は、この3月につくられた千歳市耐震改修促進計画から、地震に負けない建物づくりと私たちの暮らしについて紹介します。

「地震に備える」を特集した広報ちとせ平成20年9月号  
(記事の内容は市のホームページからご覧になれます)



市内の東部にかかる石狩低地東縁断層帯からの地震や直下型の地震が発生すると、市内では最大で震度6強程度のゆれになると考えられています(広報ちとせ平成20年9月号)。

平成7年1月に発生し、最大で震度7を記録した阪神・淡路大震災では、6,434人もの方の命が失われました。そのうちの75%、4,831人の方は、住宅や建物の倒壊により亡くなっています。

最近、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震など、発生の可能性が低いとされていた地域でも、大規模な地震が相次いで発生しています。今は、大規模な地震がいつどこで発生しても不思議ではない状況にあります。

●特集記事のポイント

- ① 千歳でも震度6強程度の地震発生の可能性がります
- ② 大きな地震は多くの建物を倒壊させ、生命を脅かします
- ③ 出前講座などで地震に強い建物づくりを理解することが大切です
- ④ 昭和56年5月以前に建てられた建物は耐震診断を受けることをお勧めします